

2011 年度 堺市障害者自立支援協議会 障害当事者部会まとめ

- 2010 年度において地域生活支援部会の地域生活課題まとめが出されましたが、一方で障害当事者サイドの地域生活の在り方はどうなのかをうち出す必要もあり、2011 年度は主に地域生活における様々なテーマ設定で委員間の意見交換を中心にすすめてきました。
また、今年度からはじまったヘルパー事業者やグループホーム事業者への研修実施において、当事者視点としての研修として、松本委員、前田委員が 研修担当者会議に出席しています。

- 2011 年度 障害当事者部会の 1 年間の取組み

- ・本会議 運営会議において

☆地域生活におけるテーマ設定

- 1) ホームヘルパー、ガイドヘルパーについて
- 2) 災害について
- 3) 日中活動について（地域活動支援センター含む）
- 4) 生活の場について

※マスタープランのさかい型多機能グループホームについても
市からの説明を受けての意見交換

☆次期当事者部会の選考について

- ・ヘルパー事業者研修参加（11 月 22 日）
当事者部会パネラー 前田委員、松本委員
グループディスカッション 白石委員、丸野委員、谷口委員、野村
- ・グループホーム事業者研修参加（2 月 2 日）
当事者部会あいさつ 前田委員、松本委員
- ・対外講師
☆奈良県障害福祉課「相談支援従事者現任研修」
☆茨木市自立支援協議会
☆川崎市自立支援協議会

- ・区自立支援協議会
 - ☆堺区自立支援協議会の交流会
 - ☆東区自立支援協議会 防災講演会 参加

●テーマ別意見交換において（意見を通じてのまとめとして）

☆ホームヘルパーについて

主には利用者からの苦情に対してのやりとりがありました。

- 利用者から直接ヘルパーに苦情がいいにくい。
- ヘルパー事業所にも苦情窓口があるが問題解決まで達成できなかったことも多いのでは。
- ヘルパー事業所と利用者との間だけでの苦情解決は限界があるのでは。
- ヘルパーにも余裕がない。（低い単価での仕事。派遣の多重化）

問題解決として考えられることは

- ✓ 苦情解決には場合によっては事業所だけでなく別の機関にも入ってもらう必要があるのでは。
- ✓ ヘルパー研修において当事者による研修項目も必要では。
- ✓ 利用者においてはピア相談やサポートを行っていくことも必要では。

☆災害について

緊急時の避難のこと、避難所での生活想定などの意見が多く出されました。

- 災害にもよるが避難所までは車いすが使えないこともある。
- また、避難所では板間、堅いところで長時間の座りっぱなし、寝っぱなしの生活がしばらく続く。障害の重度化、二次障害を引き起こす。
- 精神薬などが入らず不安。
- 目に見えない障害への配慮ができないことも。
 - ⇒聴覚障害においては、避難所での指示が聞こえないかも。
 - ⇒難病とわかってもらえないことも。

※避難所での障害配慮の問題や医療関係者（医師やPTなど）の避難所対応が必要。

また、いざという時の隣近所との関係においては特に精神の当事者や聴覚障害者においては大変普段からの付き合いが薄いことがわかりました。（コミュニケーションの保障や地域に障害をカミングアウトできな

いなど)

☆日中活動について

主には地域活動支援センターについての障害当事者からの意見をきくことであったが、地域活動支援センターにとらわれずにどのように日中活動をおこないたいのか（就労、休日、仲間づくり活動、作業所など）を意見交換しました。

- 通院に通いながらも自分のペースで仕事がしたい。
- 学校などへの障害者の啓発活動をおこなっているが、障害者が中心で運営できる場所が増えていく必要がある。
- 障害種別を超えてお互いにフォローできる日中活動の場
- 少人数制で運営できる地域活動支援センターも必要。
- 地域活動支援センターにおいてはどんな障害者が来ても対応できる職員体制が必要。
- 場所があってもそこに通う手段がなければならない。（アクセス確保）
- 今は勤務しているが移動支援の通年長期が使えない問題がある。
- 難病患者には地域活動支援センターや作業所などはない。

※仕事や障害当事者による活動など多様なニーズに応える必要がある。

また、通所や通勤のアクセス確保や地域活動支援センターの支援配置が充実しないと本来の活動ができない可能性が出てくる。

☆生活の場について

今の生活において大切にしているところ、今までの生活課題などを意見交換しました。また、さかい型多機能グループホームについても別に意見を出し合いました。

- グループホームに入りたいが将来のことも考えて住宅改造が容易にできるホームがいい。
- あと、金銭管理やヘルパーなど。
- グループホームに入っていたがそこは「集団」生活という場所で「主」的な入居者がいてしんどかった。
- どっちにしても「個別」の支援が必要。なんでも「集団」ではしんどい。
- 大切にしていることは、食事を自分で考えてヘルパーにつくってもら

うこと。

- 大切にしていることは、冷蔵庫が必要。食事をつくって作りだめして冷凍して食べる。(自分で考えて、生活をまわす。)
- お風呂で困っている。自宅のお風呂が入りにくい時があり、タクシーでお風呂に通っている。
- 大切にしたいのはプライバシーの確保。あと、部屋で趣味ができること。
- 家の中だけで過ごすのではなく、社会とつながっていくこと。

※一番は自分で生活をまわす。そのための必要な支援を得られること。

プライバシー確保や社会とのつながりは必須であること。

あと、状況に応じた住宅改造、支援体制の確保。

☆さかい型多機能グループホームにおいて詳細はまだなものの、出された主な意見も掲載しておきます。

- 10人という人数規模や短期入所・相談支援などの合築などは生活するものとしては一人ひとりに行きわたった支援はできないのでは。
- また、騒がしい中では大変生活しづらいのでは。
- 生活の場をつくるのではなく、たとえば地域活動支援センターや短期入所などの多機能型で地域全体を支える機能をつくればいいのかのでは。
- 身近な相談支援は必要だが、それが生活の場と同じところにあることがいいのかどうか考える必要がある。
- 市の予算を使うので、もっと今の相談支援やヘルパー派遣の充実などに使えばいいのでは。
- おそらく高齢の「小規模多機能型ホーム」のモデルでは。同一法人の運営になり、法人の「囲い込み」になってしまうのでは。

☆その他

昨年度から「ウェルカムシール」(店舗への障害者受け入れ)を検討してきましたが、来年度も今後どのようなものがあるのか検討する。

●総じて

- ・介護やコミュニケーション派遣の苦情やトラブルについて
 - ☆障害者(その利用者)視点に立てない支援
 - ☆障害者サイドの支援を受ける不慣れさからくるトラブル。

☆介護時間が求める支援に対して短すぎるもしくは長すぎる。

☆報酬の低さ、忙しさから来るヘルパーサイドのモチベーションの低下。などなど

⇒いろいろあるが「制度の欠陥」が大きいのでは。(支給決定の在り方、報酬の低さゆえに人材が不足など)

その上で、支援を受ける側へのサポートやヘルパーの研修の在り方。(部会では、派遣時間帯(たとえば土日休日や深夜、早朝など)の派遣についてや同性介護については意見がでなかったが、そのことも重要なことと思います。)

- 生活の「場所」についての意見交換では、多くの方が「個別支援」の大切さを言われていたと思います。(大切にしていることができる暮らし。) 日中活動とも関連しますが、生活の場所という居宅場所の在り方だけでなく、社会とのつながりのなかでの暮らしという発想が必要だと考えます。新たに大きなもの(例: さかい型多機能グループホームのような)をつくるよりも、今ある制度や社会資源が本当に障害者にとってどうなのか検証する必要があります。
- 災害に関しては、緊急時からしばらくしての避難所生活の意見が多く出されました。実際の地元の避難所や福祉避難所などどうなっているのか分かっていく必要があります。その他、避難カードの提案もありましたので次年度丁寧に検討されればと思います。